

1. 建物概要

建物名称	株式会社マルブン建設倉庫新築工事	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.5	/5	ふつつ 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8	/5	がんばろう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.3	/5	ふつつ 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.5	/5	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.5
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④更新必要間隔の長い内装材を用いている。(床:塩ビシート 20年)	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地内に緑地を設置。	Q-3 1 3 3.2 ⑥	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2 ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑩	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓などの節水装置を用いている。 ⑫LGS+PBIにより、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑫ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮隣棟間隔の工夫など、風下となる地域への配慮をしている。	LR-3 1 2 2.2 ⑭ ⑮	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	2.8
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰電源設備、精密機器が浸水しないように配慮している。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.3
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高が3.9m以上で、ゆとりのある空間をつくっている。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑メッシュフェンスを設置することで見通しをよくし、防犯性に配慮している。	Q-3 3 3.1 ㉑	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.5
	■室外環境(敷地内)対策 (⑥生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ㉒周囲の建物と調和した色彩を採用した。	Q-3 1 2 3 3.2 ⑥	⑥ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

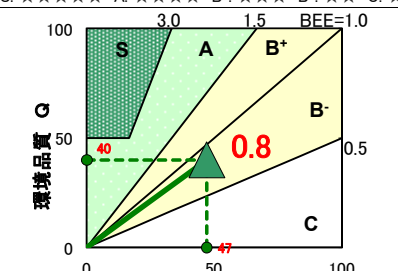
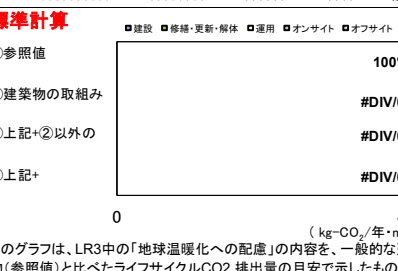
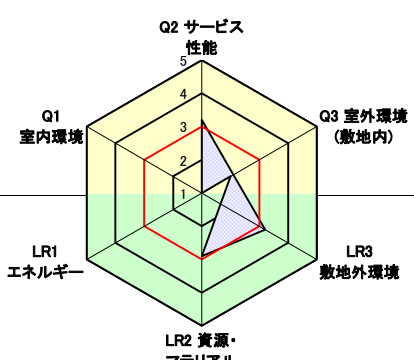
CASBEE®-建築(新築)

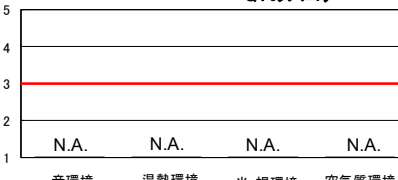
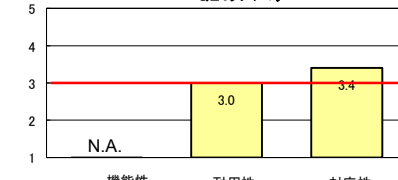
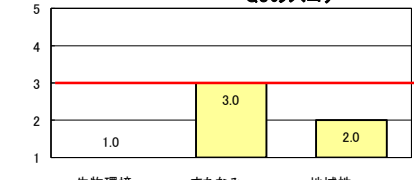
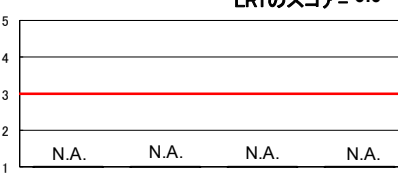
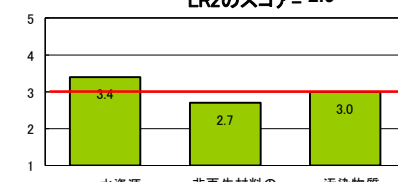
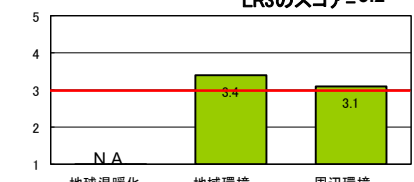
評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_評価書

■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	株式会社マルブン袋井倉庫新築工事	階数	地上2F		
建設地	静岡県袋井市松原	構造	S造		
用途地域	都市計画区域内(区域区分非設定)	平均居住人員	20 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年9月17日		
敷地面積	3,685 m ²	作成者	井下 禎宏		
建築面積	2,001 m ²	確認日			
延床面積	2,186 m ²	確認者			

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 0.8 ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★  環境品質 G 環境負荷 L	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+  (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目目で示したものです。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0  音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2  機能性 耐用性 対応性 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1  生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 0.0  建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9  水資源 非再生材料の 汚染物質 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1  地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		その他
総合 これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。節水機器の採用やLED照明の採用、燃焼機器の不採用などにより、環境に配慮。また植栽の計画により、良好な景観を形成している。		特になし
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 更新必要間隔の長い内装材を使用している。また階高に余裕をもたせゆとりのある空間づくりを可能にしている。	Q3 室外環境(敷地内) 道路境界に緑地帯を可能な限り設けている。外観は周囲になじむ色彩を採用している。
LR1 エネルギー 対象外	LR2 資源・マテリアル LGS+PBIにより、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車スペースを確保している。また雨水対策のため、調整池を設置している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される